

特別活動（学級活動） 「手話・アイマスク体験」

横浜市立南が丘中学校



単元（題材）目標

- アイマスクの体験を通して、視覚に障がいがある方の生活および、手話体験を通して聴力に障がいがある方の生活を理解し、ハンディキャップのある人々への一層の理解を深め「共に生きる心」を育てる。
- 手話・アイマスク体験を通して、相手の立場に立って考える「思いやりの心」を育てる。

（1）実施時期

令和元年5月24日（金）

（2）対象（学年等・人数）

第1学年 159名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第1学年所属 8名

外部講師：ボランティアサークル「エスポアール」（手話）8名、「つばさ」（アイマスク）10名
社会福祉協議会の方 2名

（4）実施内容 *②のAとBを交代で行う

①講演会：「聴覚障がい、視覚障がいについてとこれから行う学習について」（学年全体）

- ・聴覚障がいの方が困ることについて、講師の方から話を聞く。（手話通訳なし）

②A 手話体験：手話の実践（各学級）

- ・各学級に講師4名（「エスポアール」の方）に手話通訳していただきながら【簡単な会話（あいさつ、自分の名前等）、手話に関する基本的知識、指文字による五十音の表し方、所属している部活動の表し方】を聞き、実践する。

B アイマスク体験：段差やスロープを歩く体験や誘導の仕方（各学級）

- ・生徒二人一組でアイマスクをした生徒を、片方が腕を支えながら先導して校舎を回る。途中で水を飲んだり、階段を上り下りしたりすることも行う。

③講師の方々に全体でお礼（学年全体）

④振り返り（各学級）

- ・講話や体験を通してわかったことや考えたこと、体の不自由な方も暮らしやすい社会を今後つくるためにどんなことを考えていけばよいか、自分たちにもできることは何かを考えた。

（5）成果

- 実際に手話を実践してみることで、聴覚障がいの方とのコミュニケーションに対する理解を深めることができた。また、今まで知らなかった世界を知ることができ、自分たちが住む地域において、聴覚障がいや視覚障がいの方を意識するようになった。

〈生徒感想 一部抜粋〉

- ・聴覚障がいの方は、健常者との見分けが難しいことがわかった。誰であろうと困っている人がいれば戸惑わずに、声をかけて助けたいと思った。